

**仕入単価は引き続き増加傾向もDI値は改善傾向、
業況判断など、一部には改善の兆しが見られる。**

山口商工会議所では、管内中小企業89社を対象に景況調査を実施し、このほど平成19年7～9月期の実績と平成19年7～9月期見通しについての調査結果をまとめた。(回答数83社、回答率93.3%)調査は3ヶ月毎に行う。調査結果より、前年同月(平成18年7～9月)と比べた今期(平成19年7～9月)の状況は、業況判断が前回同様マイナスの状況ではあるがDIについてみると、全業種・小売・サービス業で改善、製造業では悪化している。売上は建設業を除いて改善傾向、仕入単価は増加傾向であるがDIは改善している。今期中に設備投資を実施した企業及び、来期設備投資を計画する見通しである企業はともに15.7%と、今期同様来期も同程度の設備投資意欲が伺えた。今期の経営問題では、前回上位3位に入っていなかった課題が建設業、小売業で一番目を選択されたのが目を引いた。(建設業:「民間需要の停滞」、小売業:「大型店・中型店の進出による競争の激化」)。製造業、サービス業でも新しい課題が上位3位に入ってきた。

業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数増減	前回調査比
全産業	-17%	↗	-18%	↗	-10%	↗	22%	↘	-23%	↘	4%	↗
製造業	-18%	↘	-17%	↗	-8%	↘	50%	↘	-25%	↗	11%	↗
建設業	-30%	→	-40%	↘	-10%	↗	27%	↘	-9%	↗	0%	↗
小売業	-14%	↗	-23%	↗	-7%	↗	10%	↘	-24%	↗	8%	↗
サービス業	-12%	↗	0%	↗	-15%	↘	26%	↘	-25%	↘	4%	→

産業別景況判断DI(前年同期比)の推移と来期見通し

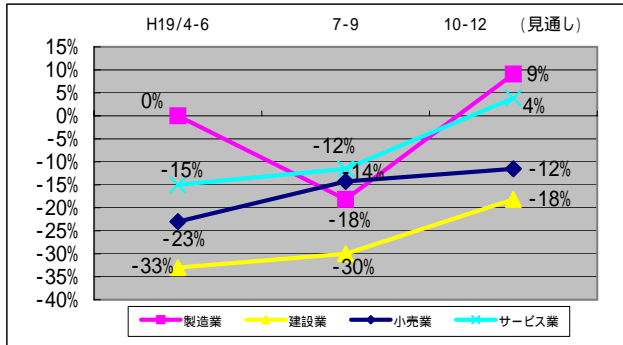
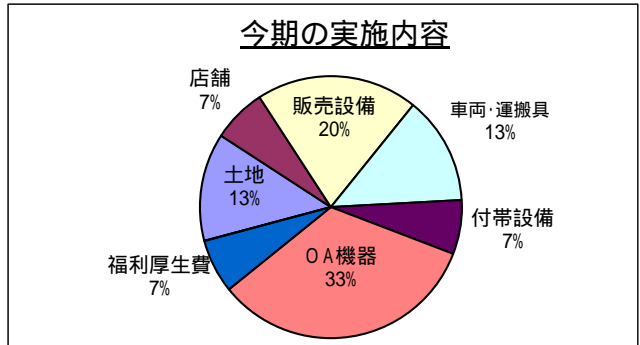
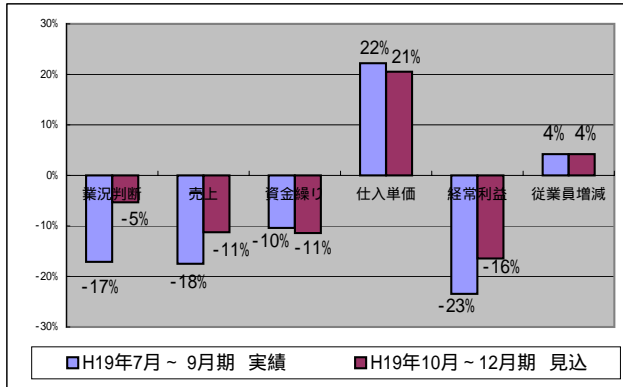


図1 今期中の設備投資の内訳(%)



全産業DI項目別(平成19年7～9月実績とH19年10～12月見通し)の比較



来期の実施内容

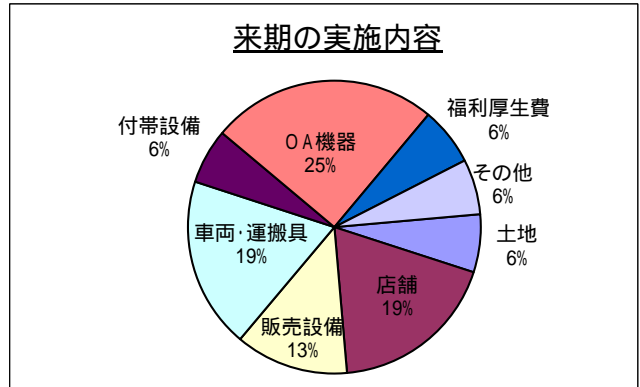


図2 経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	24.1%	民間需要の停滞	18.2%	大型店・中型店の進出による競争の激化	20.0%	利用者ニーズの変化への対応	20.0%
2位	原材料価格の上昇	17.2%	官公需要の停滞	16.7%	購買力の他地域への流出	16.1%	需要の停滞	18.6%
	製品(加工)単価の低下・上昇難							
3位	製品ニーズの変化への対応		請負単価の低下・上昇難	14.4%	消費者ニーズの変化への対応	16.1%	店舗施設の狭隘・老朽化	11.4%

注) DI(状況判断指数)とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。